

独立行政法人航海訓練所の平成26事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が着実に達成され、国土交通大臣による平成26年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行われなかった。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	26事業年度評価における主な指摘事項	平成27及び28年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<p>I－(1) 航海訓練の実施 (1) (b) 四級海技士養成</p> <p>○内航用練習船として大成丸が就航し、訓練内容の充実が図られていることは、評価できる。今後は、その成果についての検証が必要である。</p> <p>○実践力の強化として、夜間の瀬戸内海航行について積極的に取り組んでもらいたい。</p> <p>I－(1) 航海訓練の実施 (1) (h) 実習生による訓練評価等</p> <p>○指摘事項、改善内容等の具体例について大学と同様に開示することが必要である。</p>	<p>○内航船員養成教育訓練プログラムによる内海を中心とした航海訓練に取り組み、プログラムを確実に実施している。平成27年度からは、大成丸に内航海運事業者によるアドバイザーを派遣乗船させて練習船実習の点検を行い、その成果を航海訓練に反映している。</p> <p>○内航用練習船では昼間航海に夜間航海を組み合わせ、実習生の練度や習得度を踏まえた効果的な実施に取り組んでいる。平成27年度における内航用練習船等による夜間航行については、大成丸年間55日、青雲丸年間48日と航行日数を平成26年度より増加させて実施している。</p> <p>○平成27年度においては、実習生による訓練評価（アンケート）の内容を見直し、海上志向性、実習への取組姿勢、知識、技能及び資質面の自己評価結果を航海訓練の改善に活用するほか、関連する行政機関、海運業界等に開示して、船員教育に関する議論に活用している。</p>
業務運営の効率化に関する事項	なし	
財務内容の改善に関する事項	なし	

その他の事項	なし	
--------	----	--